

パネルディスカッション

AI・IoT革命に挑戦する企業とアナリスト

《パネリスト（五十音順）》

山 海 嘉 之

（ CYBERDYNE株式会社代表取締役社長
筑波大学サイバニクス研究センター長
内閣府ImPACTプログラムマネージャー ）

谷 口 恒

（ 株式会社ZMP
代表取締役社長 ）

吉 田 晴 乃

（ BTジャパン株式会社
代表取締役社長 ）

■司会者

中 空 麻 奈 CMA・CIIA

（ BNPパリバ証券株式会社
投資調査本部長チーフクレジットアナリスト ）

目

1. 自社紹介とAI・IoTへの考え方
2. AI・IoTの先の世界像
3. 日本経済と各社のAI・IoTへの取組み

次

4. AI・IoTが進むことによる負の側面
5. アナリストへのアドバイスと提言

1. 自社紹介とAI・IoTへの考え方

中空 本日は、今後AI・IoTによってどのような時代になっていくのかを思い描けるような議論にしたいと思っている。私もクレジットアナリストとして、AI・IoTを日々学んできたが、それでも何か遠い世界のような気がしている。皆さんも同じ思いがあるかもしれない。しかしながら、本日

のディスカッションを聞くことで、そのような遠い話ではなく、すぐ目の前のことだと分かるはずだ。しかも、10年後には更に進化しているはずで、10年後や20年後がどうなっているかといった将来像についても語られることを期待している。個性的なパネリストが出席されているので、得られるものも大きいと思う。AI・IoTには良い面ばかりではなく、労働力が必要でなくなるという懸念

（本稿は2016年10月14日に開催された日本証券アナリスト大会のパネルディスカッション要旨に加筆・修正したものである。）